

カラマツツツミノガが札幌に発生

東 浦 康 友

札幌市有林で今年（平成3年）5月下旬，芽吹いたばかりのカラマツが突然真っ赤になり，訪れる人たちを驚かせた（写真 - 1）。この市有林は札幌市豊平区真栄にある白旗山都市環境林（約1100ha）で，ほぼ全部がカラマツ林である。

真っ赤になった原因は，カラマツツツミノガの食害によるものである（写真 - 2）。石狩南部地区林業指導事務所からの被害報告によると，激害が376ha，中・微害は131haで，発生区域面積は507ha，被害を受けたカラマツは21～60年生であった。この一部（20ha）は昨年に続いて2年連続の発生である（表 - 1）。



写真 - 1 カラマツツツミノガによる激害林分



写真 - 2 加害した針葉上で糞を固着し蛹になる幼虫

6月になると愛別町でも5～7級のカラマツ林131haでこのツツミノガが大発生したとの連絡を道林務部森林整備課から受けた。

不思議なことに，札幌市有林も，この愛別町の私有林も，昨年（平成2年）すぐ近くでミスジツマキリエダシャクが大発生した共通点がある。しかし，この両者の大発生に関しては，現在のところ不明である。

表 - 1 昭和43年（1968年）以降の
カラマツツツミノガ発生記録

発生年	発生地名	年齢	区域面積	発生年	発生地名	年齢	区域面積
1968	共和村	2	3ha	1981	鹿追町	2 - 4	80
	留萌市	1	19	1986	木古内町	3	16
	喜茂別町	2	1	1990	幕別町	7 - 8	128
合計		23	更別村		4 - 9	27	
1972	渡島管内	3	17	忠類村	3 - 9	581	
1973	森町	2	3	豊頃町	5 - 9	910	
1979	壮瞥町	3	50	大樹町	3 - 9	431	
1980	厚沢部町	2 - 3	712	広尾町	3 - 8	79	
	森町	3	20	札幌市	不明	20	
	虻田町	3	5	合計		2176	
	壮瞥市	1 - 3	160	1991	札幌市	5 - 12	507
	伊達市	1 - 4	53		愛別町	5 - 7	13
	静内市	3	8		合計		520
	合計			958			

カラマツツツミノガの形態と生活史

カラマツツツミノガは、開帳 9 mm の小さな蛾で、体・翅ともに暗灰色であり、絹糸様の光沢がある。翅は細長く、縁に長い細毛がある。成虫（蛾）は 6 月に出現し、カラマツの針葉上に 1 個ずつ産卵する。卵期約 2 週間でふ化した幼虫は、すぐに針葉の中に食い入り内部を食べる。秋になると、落葉する前に、穿孔していた針葉を食い切って、筒状の蓑を作る。この蛾の和名（唐松筒蓑蛾）は、このような習性から名付けられた。この蓑を付けたまま移動し、短枝や枝の付け根に集まり越冬する。翌春カラマツの開葉と同時に、蓑から頭胸部を乗り出して葉に食入する。幼虫は蓑に入ったまま新しい針葉を求めて移動し、食害を続ける。5 月中旬からの食害量ももっとも多く、食害された後には葉の表皮だけが褐変して残るので、遠くから見ると、山全体が真っ赤に見える。5 月下旬から蓑を固着させ、その中で蛹になる。始期は 1 週間である。

これまでの大発生と被害経過

カラマツツツミノガの発生面積が 100ha を越えたのは今回を含めて 3 回ある（表 - 1）。大発生した林分の林齢は 1 ~ 12 齢級で、齢級を問わず発生するようである。大発生は 1 年で終息する場合が多く、2 年連続発生した例はごく少数あるにすぎない。この幼虫の食害は見た目は激しいものの、すべての葉が食い尽くされても、6 月中旬にはふたたび芽吹きが始まり、7 月には葉量が回復する。このため、この食害によってカラマツが枯死した例はない。防除の必要はないが、キクイムシなどによる 2 次被害を避けるため、間伐材を早めに搬出するよう注意する必要がある。

（森林保護科）